

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300061		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム湯田あいおい苑		
所在地	山口市下市町2-1		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町受理日	平成25年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成24年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念は「その人らしく最期まで尊厳のある人生を」で利用者様の尊厳を大事にしながら生活を援助し、運営方針は「地域と友(共)に大切にします」「笑いの絶えない心地よい空間を大切にします」「約束を守るを大切にします」「音のある風景を大切にします」「温もりの香りを大切にします」「認知症を個性ととらえ思いやりの介護を大切にします」利用者様が明るく楽しく元気に毎日を暮らせていけるように職員が理念・運営方針を守り、利用者様が毎日を普通に生活できるように、又少しでも幸せと感じていただけるように生活支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入され、総会への出席、清掃作業、地域の祭りの参加の他、保育園児と「たこ焼き」などを作って昼食を楽しんだり、運動会に参加するなどの交流をされています。手芸、3B体操、琴、お手玉などのボランティアの来訪も多く、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域活動や人々との関わりに取り組んでおられます。花火大会、七夕提灯まつり、ほたる鑑賞、イルミネーション見学等の夜間外出や出張精進料理、出張にぎり寿司、ウッドデッキでのソーメン流し、秋刀魚焼き、餅つきなど一人ひとりが生き生きと楽しく過ごせるように、外出支援や食事を楽しむ支援をされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「その人らしく最期まで尊厳のある人生を」を事業所理念としており、利用者に毎日を楽しく生活していただけるように、管理者と職員は日々、利用者の事を考えながら努力実施している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、玄関、スタッフルームに掲示し、申し送り時に確認して、共有し、業務の中で一人ひとりが日々その人らしく、楽しく過ごせるよう実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に参加している。町内の活動(総会への参加、町内清掃や秋葉神社の清掃参加、保育所行事の参加や交流など)を積極的に行っている。	自治会に加入し、総会への出席、清掃作業、地域の神社の清掃、地域のまつりに参加している。保育園児と「おはぎやたこ焼き」を作り昼食を共にしたり、運動会の参加などで交流をしている。ボランティア(手芸、3B体操、琴、お手玉など)の来訪や野菜、花の差し入れ、散歩時の挨拶などで日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の行事やレクリエーションなど、地域の方や保育園児を招き、利用者との交流を持ちながら認知症の理解や支援の方法を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が自己評価及び外部評価の意義を理解している。職員会議などでどのように施設をよくしていくかを話し合い改善に取り組んでいる。	評価の意義を説明し、管理者が記載した評価表を全職員に配布して、話し合い自己評価に取り組んでいる。外部評価結果を活かして、運営推進会議の地域メンバーの拡大など、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。自治会長、地域包括支援センター職員、利用者、利用者家族、他のグループホーム職員、保育園職員、近隣の方などに参加してもらい、湯田あいおい苑の現状報告や季節行事など報告をわかりやすく説明し、参加者と苑職員との意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	家族、地域住民、保育士、自治会長、老人会、婦人会、県立大実習生、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1回開催している。行事計画、現状報告、活動報告、利用者状況を報告し、地域の人と合同の避難訓練、外部評価等について話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	山口市介護サービス提供事業所連絡協議会に参加し、情報交換や意見交換をし連携を図っている。市担当課には積極的に相談等を行い連携を図っている。地域包括支援センター職員の方にも運営推進会議に参加していただいている。	担当課とは書類提出などで出向いたり、電話等で相談、情報交換をしている。地域包括支援センターとは相談、情報交換をして協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会を中心に情報収集を行い、利用者の身体状況を考えながら職員会議の場などで話し合い身体拘束の防止に関する情報の共有化を図っている。玄関ドアは常に開放しており出たり入ったりが簡単にできるようにしている。	法人研修を受講した職員が復命をし、全職員が共有する他、事業所の安全対策委員会で話し合いをして職員は理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者、主任が指導している。玄関は施錠しないで、外出察知した場合は一緒に出かけるなどの対応や声かけの工夫に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全対策委員会を中心に高齢者虐待防止関連法の情報収集を行い、職員会議の場などで情報提供や共有を行い、虐待に対する意識を考えながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者が1名入居されおり、管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員会議の場で知識を習得し、対応に努めている。又、利用者が利用している司法書士の方との面会により会話も行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を訪ね、理解や納得がしていただけるよう何度も説明を行っている。日常的な利用者の状況を電話連絡などで伝えている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確にし、又、玄関にはご意見箱の設置やご家族に発送している広報誌の中に、ご意見用紙を同封しており、意見や要望を聞き管理者や職員が話し合い速やかに対応をしている。	相談、苦情受付担当者、外部機関、第三者委員を明示し、処理手続きを定め、契約時に周知している。意見箱の設置や事業所だよりの送付時に意見用紙を同封する他、運営推進会議時や面会時、電話等で意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年2回実施している個別面談で、職員から出る意見や提案を聞き運営に反映させている。月1回の職員会議の場や個人での会話の中で意見や提案を聞いている。	管理者は年2回実施する職員との個別面談や月1回の職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている。日常業務の中で意見等が言いやすい雰囲気づくりに努め、業務改善や利用者の夜間外出における勤務体制等の意見、提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートや個人面談によりキャリアアップが出来るように整備している。又、週1回の統括会議にて現状の報告を行い、法人幹部との話し合いを行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は職員を対象に月1回実施しており、又、外部研修などに参加しながら職員の能力向上を目指している。代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践力を人事考課シート確認することで把握している。	外部研修は情報を伝え、職員の経験や段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命し、資料を閲覧できるようにしている。月1回の法人研修への参加や内部研修を不定期に実施している。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会で認知症関係のネットワークづくりを行い勉強会などに参加している。山口市介護サービス提供事業所連絡協議会の施設部会に参加し、同業者との交流を図りサービスの質を向上させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅でご本人とご家族との面接を行い、要望等を聞き不安がないように説明を行う。入居後は面会を頻繁にさせていただき利用者の生活の様子をご家族にお話をして関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の時間や電話連絡をし、ご家族に不安なことや要望を聞きながら管理者と職員で話し合い希望が叶えるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況が変化することにより報告し、ご家族にサービス利用を理解していただけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持っている力を把握し、日常生活の中で役割を見つけていただき、利用者が自分で暮らしていけるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに生活の状況を説明し、利用者のご家族との会話が弾むようにお話し、ご家族の絆を大切に出来るように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のご家族や友人の方などの面会時には一緒に写真を撮り部屋などに飾っている。馴染みの方との関係が途切れないように職員が「また来て下さい」と暖かくむかえている。	知人や友人の来訪、電話や年賀状の支援の他、家族の協力を得て、行きつけの理美容院の利用、外泊、墓参り、結婚式など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がくつろぎ会話ができる環境を作っている。レクリエーションに参加していただき利用者同士が楽しめるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族との相談や支援に応じて「縁」の大切さを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で集めた情報を職員間で共有しながら希望が叶えられるように努めている。	日々のかかわりの中での会話や行動、表情から気づいた思いや意向を申し送りノートや職員ノートに記録し、職員で話し合っ介護記録に残し、把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得たり、表情、行動等で本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との交流のなかで、利用者の生活歴や馴染みの暮らしや環境を聞き、過去の様子を把握する。利用者の過去を大切にしながら現在の生活をさらに大切にしながら関わりを行っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のできるできないことを把握し、一日の生活への関わりを行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が利用者の担当を持ち、面会時や電話連絡などでご家族と話し合い、意見やアイデアが反映できるように努めている。	月1回カンファレンスを開催し本人、家族、主治医、看護師等の意見、要望を反映して、介護計画を作成している。2ヶ月毎のモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。要望や利用者の状態に変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて介護計画を見直すなど、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、生活記録、身体チェック表等の見直しを行い、職員間で話し合いながら情報を共有し、利用者にとって良い生活環境を作れるよう努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者への個別外出や理美容院への付き添いや医療機関への受診介助などを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児との交流を通じて、笑顔や雰囲気を感じている。近所にあるスーパーなどに散歩をしながら買い物を楽しんでいる。近くの足湯などにも入って温泉気分を味わっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調管理を行い、体調不良時など、協力医療機関と相談、報告、実施などをその都度行っている。受診後はご家族に報告、相談を常に行っている。	本人や家族の同意を得て、協力医をかかりつけ医とする他、以前からのかかりつけ医を受診できるよう支援している。家族の協力を得て受診の支援をし、受診結果を伝達して共有する他、月1回の往診、週1回の訪問看護、緊急時の対応など、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が毎日健康に過ごせる用に体調管理、訪問看護師との連携を図りながら援助している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、ご家族や医療連携室と情報交換を行い、身体状況の把握に努める。退院時には、家族や医療連携室また職員との話し合いのなかで早期に退院ができるように身体状況を把握しながら協議している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族に事業所の基本方針を伝えている。又、利用者の身体状況の変化ごとにご家族との話し合いを持ちながら今後の事業所での出来ることを理解していただけるように取り組んでいる。	重度化した場合の指針に基づいて、契約時に事業所が対応し得るケアについて説明を行っている。重度化した場合には、本人、家族、医師、看護師等、関係者で話し合い、方針を共有して「、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの身体状況を把握し、職員間で話し合い事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットや事故報告書の記入を行い、その都度検討し改善が行えるように努め、研修等を行い実践力を身につけている。	法人のリスクマネジメントの研修を受講して、復命をし、全職員が共有を図っている。ヒヤリハット・事故報告書に記録し、その日の勤務職員間で話し合い、申し送り時に確認して、共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的訓練をすべての職員が実施し、実践力を身につけるまでに至っていない。	・すべての職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消火訓練・避難訓練・通報訓練を夜間想定で行っている。訓練内容を運営推進会議で報告し、協力のしていただけの様お願いしている。職員会議の場でも意見交換を行い全職員に周知している。	消防署の協力を得て、年2回夜間想定で消火訓練、避難訓練、通報訓練を行い、運営推進会議で訓練報告をしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしながら声かけを行い、誇りやプライバシーを傷つけないように対応している。	全職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応について理解し、入浴時や排泄時にも目立たず、さりげない言葉かけや対応に取り組んでいる。守秘義務についても理解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員による指示的な声かけ誘導でなく、利用者が自分から思いや希望が表せ選択できるような環境作りをしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを大切に、その日の過ごし方や希望に応じた生活を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がその日に着たい服を職員と一緒に選んでいる。買い物や理美容院などを利用しながら身だしなみやおしゃれができるように努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で採れる野菜などを使い、利用者と職員と一緒に食事の準備などを行い、季節感を感じながら楽しく美味しい食事をしている。利用者の残存能力に合わせて配膳や下膳などを行っている。	三食とも事業所で食事作りをし、利用者と一緒に下ごしらえ、下膳、食器洗いをしている。利用者と職員が同じ食卓で同じものを食べながら、和やかに食事をしている。差し入れの野菜を使っての調理、季節の行事食、出張にぎり寿司、出張精進料理、ウッドデッキでの秋刀魚焼き、ソーメン流し、保育園児と「たこ焼きやおはぎ」を作り昼食を共にする他に、家族の協力を得て誕生日に外出に出かけるなど、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの取れたメニューを考え、利用者一人ひとりに合わせた食事量で対応している。一日の中で水分量を確保出来るように介護記録にチェックしながら職員が随時飲み物を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ見守りを行っている。自分でできない方は、洗面所で声かけにて口腔ケアを行い自分の持てる力の範囲で行ってもらい、できないところを援助する。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録(食事量、水分量、服薬、排泄状況など)を確認しながら、利用者の排泄リズムを把握して、声かけや誘導を行っている。	排泄表を活用して排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者への水分補給や食事の提供を大事にしなが、日々の便秘の状態を把握して体調の変化により医師、訪問看護師から助言をもらい便秘対策に講じている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者から入浴の希望、お湯加減、洗髪や洗身方法などを聞きながら、入浴を楽しんでもらっている。会話をしながら入浴の時間を楽しんでもらっている。	入浴時間は13時30分から16時までの間で、本人の希望に合わせて入浴出きるよう支援している。入浴したくない人には職員交代や時間をおいたり、声かけの工夫をして対応している。シャワー浴、清拭、二人での入浴、ゆず風呂など、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に合わせ居室での休息や安心して気持ちよく眠れるように温度調整をしたり、夜間でのホットミルクの提供を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック表を使用して適切な服薬管理を行っている。職員は一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用途や容量について理解して援助を行っている。服薬後の状態変化などの観察を行い変化があった時には適宜、協力医療機関の医師に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい行事(季節ごとの外出、買い物、外食、保育園児との交流など)と役割作り(野菜作り、裁縫、掃除、料理、水やり、手芸など)を、利用者が楽しみながら気分転換ができるようにしている。	裁縫、掃除、手芸、編み物、買い物、カラオケ、ボーリング大会、百人一首、畑づくり、季節行事(節分、雛まつり、ソーメン流し、クリスマス会、餅つき等)、かきもち焼き、しそジュース作り、お手玉等、活躍できる場面づくり、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と一緒に近隣への散歩や買い物をしている。「あなたの願いをかなえましょう」で、利用者から行きたいところや食べたいものなどを聞き、ご家族と職員で相談しながら一緒に外出をしている。	花火大会、七夕提灯まつり、ホテル鑑賞、温泉まつり、イルミネーション見学等の夜間外出や門司レトロ、花見(藤、牡丹、桜、寒桜等)や紅葉狩り、リンゴ狩り、初詣、カラオケなど希望に添って戸外に出かけられるよう支援している。家族の協力を得て外食、墓参りなどの外出支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出などで本人の買い物ができるように支援しながら、本人の力で現金の支払いが可能になるように声かけしながら行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がいつでも電話がかけられるように声かけをし使用している。季節の便りを発送、ご家族やご友人からの手紙を頂き、利用者に満足してもらえるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が作った作品を飾ったり、利用者の思い出の写真を掲示したりしながら、心地よい居場所で会話が弾むように工夫している。	2ユニットの共用空間はL字型につながっており、隣のキッチンの状況、食事風景が見られる。天井近くまである窓の夏の日射しをカーテンやゴーヤでさえぎって温度調節をするなどの工夫やウッドデッキで秋刀魚を焼いたり、餅つきをするなど季節感を感じる行事を楽しむことができる。廊下の畳のベンチ、テレビの前のソファは一人で過ごしたり、仲の良い人同士がくつろげる居場所となっているなど、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキや廊下などに畳み椅子やクライニングチェアや木製のベンチを置き、利用者がいつ、どこでも自由にくつろげるように設置している。利用者が休んだり、本を読んだり、利用者同士が井戸端会議などができるように居場所を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用していた親しみのある家具、服やテレビ、思い出の写真などを飾り居心地よく過ごされている。	テレビ、椅子、衣装掛け、衣装ケース、時計、化粧品、写真、手作りの作品を飾るなど、使い慣れた物、好みの物を活かして本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の居室の前に写真入りの表札、トイレの場所や入浴場所が分かるように看板やのれんを設置している。カレンダーや時計を取り付け、時間や日付が分かるように表示している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム湯田あいおい苑

作成日: 平成 25年 1月 29日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No.15	全ての職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	全ての職員が事故防止に努め、応急手当の仕方や初期対応をスムーズにできるように、研修への参加や職員間での話し合いを行い知識・緊急対応の向上に努める	全ての職員に定期的な医療研修への参加や普通救命講習などを受ける	12か月
2	No.9	内部研修の充実	外部研修に多く参加し職員間で情報の共有化を行い、年間にかけて職員の作り出す勉強会を繰り返し、研修の充実を図る	外部研修の参加を増やす。また内部研修の充実を図るため参加・実施できる勉強会を職員間で行う	12か月
3	No.16	地域との協力関係の構築	消防訓練を地域の方に参加して頂き、協力体制を築く また運営推進会議メンバーを増やし地域との協力体制を強化する	近隣への声かけや町内総会への参加を利用しながら地域への協力体制を築く	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。